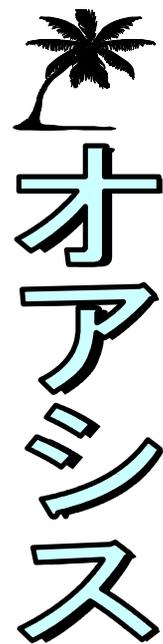


# ジェンダー平等社会を

日立ジョンソンコントロールズ空調  
と関連会社で働く  
人のネットワーク



2021年9・10月  
No. 91  
発行：オアシス  
編集委員会  
連絡先：多田義幸  
TEL  
090-9121-0602

世界経済フォーラムが男女格差を測る「ジェンダー・ギャップ指数2021」を公表しました。この指数は、「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野のデータから作成され、日本の順位は156か国中、120位でした。先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となりました。これは日本が世界の中で、男性優位度が高い社会であることを示しています。その原因の一つとして、性別役割分担意識があります。

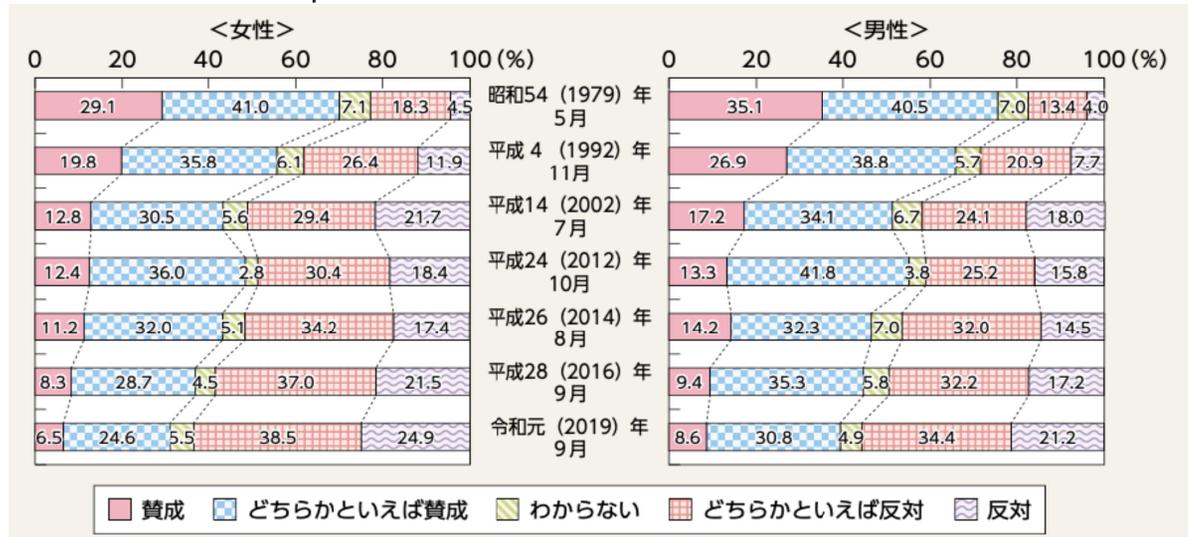
性は、スウェーデンとイギリスでは10%以下、ドイツ、アメリカ、韓国は、賃金格差の是正を進めるためには、働きやすく、子育てしやすい職場と社会が必要です。

性別役割分担意識とは、「男は仕事・女は家庭」のように、男性、女性という性別を理由として役割を分ける考え方のことです。

下図は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、賛成か反対かについて質問した結果です。

1979年の調査結果では、『賛成』（「賛成」「どちらか」といえば賛成）の合計とする回答が、男性76%、女性69%となっていました。しかし、2019年の調査結果では、そのような考え方は、男性39%、女性31%となっており、『反対』（「反対」「どちらか」といえば反対）の合計とする回答が、男性56%、女性73%と上回っています。

日本の中では、一定の変化が見られますが、世界と比較するとその差は歴然です。2002年の時点で『賛成』と答えた男



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化  
(男女共同参画白書 令和2年版より)